

# ワクモ防除対策について

ワクモは鶏に寄生して吸血し、貧血による生産性の低下等を引き起こします。

それだけでなく、病原体を伝播することも知られ、多大な経済損失を与えています。

被害低減のために、飼養衛生管理基準をベースに、下記の対策を再確認してみてください。

## 対策のポイント

- 1 効果的薬剤の選択  
同系統の薬を使用し続けると耐性を獲得するため、定期的な感受性の確認及びローテーションが必要です。
- 2 オールアウト後の鶏舎・器材への薬剤散布および高温加熱洗浄  
オールアウト直後に薬剤散布で成ダニを殺して、65℃以上の高温加熱洗浄を行います。
- 3 約1カ月の空舎期間  
ワクモは、無吸血で生存しています。無吸血ワクモは吸血ワクモより殺虫剤に対する抵抗性が弱いと言われおり、対策のチャンスです。
- 4 導入前に再度薬剤散布  
上述のとおり、抵抗性が弱くなる導入の直前に再度実施すると、さらに効果的です。
- 5 環境制御資材（シリカ、珪藻土など）、段ボールトラップ等  
物理作用によりワクモの動きを制御し、吸水性能によりワクモの体液を奪い脱水症状に陥らせ、活動を停止させます。  
また、ワクモは狭い隙間に入り込むため、段ボールを設置し、定期的に回収することで数を減らすことができます。

参考文献

株式会社食環境衛生研究所「食環研コラム」

<https://www.shokukanken.com/column/stock/002345.html>